

【年表】：第一次世界大戦の動きとインフルエンザの広がり

	ヨーロッパでの動き	アメリカの動き	フィラデルフィアの動き	
1914	6/28	サラエヴォ事件		
1915	5/7	ルシタニア号事件		
1916	2/21~12/18	ヴェルダン要塞攻防戦		
	5/31~6/1	ユトランド沖海戦		
	7/1	ソンムの戦い		
	12月半ば		ウィルソンが交戦諸国に対して講和条件などを打診するが失敗	
1917	1/22		ウィルソン大統領の「勝利なき平和」演説	
	1/31	<b>ドイツが無制限潜水艦作戦を宣言</b>		
	3/8	ロシア二月革命		
	4/6		<b>アメリカがドイツに宣戦布告</b>	
	4/13		<b>戦時広報委員会（クリール委員会、CPI）創設→「100%のアメリカニズム」を要求し、言論統制</b>	
	6月		<b>スパイ法制定</b>	
	11/7	ロシア十月革命		
	1/8		ウィルソンが「十四か条の平和原則」発表	
	1月後半~2月初旬		カンザス州ハスケル郡の医師が現地の数十人の患者をインフルエンザと診断。後日、専門週刊誌に「重症型インフルエンザ」と警告記事を出した	
	2/28~3/2		数名がハスケル郡からキャンプ・ファンストンを訪れた	
	3/3	ブレスト=リトフスク条約調印		
	3/4		キャンプ・ファンストンである調理兵がインフルエンザを申告。その後3週間で1100人以上の兵士が入院、その後数千人が入院。237人が肺炎、死亡者は38人。	
	3/11		カンザス州ライリー駐屯地で107名の「三日熱」患者。一週末には522名、四月中に1000人以上の患者、	
	3/18		ジョージア州フォレストとグリーンリーフ両キャンプでインフルエンザが発生	
	3/21	ドイツ軍が西部戦線で反撃を開始		
	3/30	ドイツ軍がアミアン近くまで迫る		
	3月中		デトロイトのフォード自動車工場に1000人以上の「三日熱」病欠者。	
	4月	フランスの第六軍と第三軍にインフルエンザが広がる。		
	4/10	<b>フランス陸軍で初めてインフルエンザ発生を確認</b>		
	4月中旬	イギリス陸軍で最初の患者発生		
	4月か5月	<b>ドイツ軍内にインフルエンザ患者が出たことを確認</b>		
	5月	イギリス陸軍第一軍だけで、3万6473人が入院、軽症患者が数万人発生。	アメリカ陸軍長官ニュートン・ベイカーが一定の大学の総長に、軍事教育を行うよう手紙を書く	
	5/10	スコットランドの北端のスカパ・フロー軍港に碇泊していたイギリス艦隊で、この日までに乗組員の10%、つまり1万313人がインフルエンザに罹患。出航が3週間延期。		
	5/16		<b>治安妨害法制定</b>	
	5/23		<b>憲兵隊長エノック・クラウダーが基幹産業に雇用されていない者は全員召集すると宣言。</b>	
	5/29			
	5月下旬	フランスの1018人の駐屯地で、新兵688人がインフルエンザで入院し、49人が死亡。		
	5~6月	スペインで、約800万人が罹患。マドリッドにおいては、5月に56名、6月に220名が死亡。		
	6月	大陸から帰還した兵士がイギリスにインフルエンザを持ち込む。ドイツでもインフルエンザ発生		
	6/30			インフルエンザの蔓延しているイギリスの貨物船がフィラデルフィアに停泊。乗員数十人がペンシルバニア病院に搬送された
	6月~7月	イングランド、スコットランド、ウェールズで死亡率上昇		
	7月	スイスで5万3000名がインフルエンザに罹患。その他、デンマーク、ノルウェーでも発生		
	7/8の週	ロンドンで278人がインフルエンザ肺炎で死亡。パーミンガムでも126人が死亡。		
	7月第2・3週	ノルウェーのオスロで1万4425名のインフルエンザ罹患患者を出す		

7月の3週間	ロンドンで、インフルエンザで700人、肺炎で475人が死亡。		
7/18, 19	ドイツ軍がソワソンの戦闘に失敗。原因として、指揮官はインフルエンザと単調な食事を挙げる		
7月末	デンマークのコペンハーゲンで、8514名のインフルエンザ罹患患者。その前後3週間で合計1万8523名の罹患患者を出す。		
8月	オランダ、スウェーデンでインフルエンザ患者が発生	アメリカ陸軍長官により、大学の教養課程の授業は中止となり、軍の将校による軍事教練となった。	
8/1		アメリカ国内の兵営からおよそ1000人の看護師をフランスに送る。その後8週にわたって毎週1000人の看護師を送る動き	
8/8	「暗黒の木曜日」。連合国軍によるアミアンでの奇襲作戦で、2万人のドイツ兵が捕虜となった。		
8/10	・イギリス軍司令部は、インフルエンザの終息を宣言 ・フランスの港ブレストに駐留していたフランス軍水兵が多数インフルエンザと肺炎で入院		
8/11		ニューヨークに着いたノルウェーの貨物船が、航海中に4人のインフルエンザ患者を水葬に付している	
8/12		ノルウェーの貨物船がインフルエンザで死亡した4人の乗組員を水葬に付した後、ブルックリンに入港。200人の患者を病院へ搬送	
8月中旬		ボストンに近いディベンズ基地で、何人かの肺炎患者を出す	
8/19		『ニューヨークタイムズ』が、フランスに向かった相当数のアメリカの黒人が上陸後インフルエンザにかかり、肺炎が原因で死亡したと報道	
8/20	イギリス本土で、インフルエンザの終息を宣言	インフルエンザがニューヨークで発生したと宣言	
8/27		ボストンの二人の水兵が医務室にインフルエンザを申告。	
8/28		ボストンの8人の水兵がインフルエンザを申告	
8/29		ボストンの58人の水兵が入院。	
9/1		アメリカのキャンプ・ディベンズで、4人の肺炎で入院。その後6日間で新たに22人が肺炎と診断された。	
9/3		一般市民が1人インフルエンザでボストン市立病院に入院	
9/4		ニューオーリンズ海軍病院の医師が、市内で初めて軍関係者にインフルエンザの診断を下した。その後入院した42人のうち40人がインフルエンザ肺炎にかかっていた。	
9/5		赤十字職員が、「我々はアメリカの隅から隅まで探しまくり、隠れている看護師を残らず掘り出している。この調子でいけば、民間の看護婦は一人もいなくなるだろう」と記した	
9/7		グレートレークス海軍訓練所でインフルエンザ発生	水兵300人がボストンからフィラデルフィア海軍基地へ到着（その他、ボストンからは五大湖地方やシアトルに近いピューゼットサウンド基地にも向かう）
9/8		ロードアイランド州ニューポート海軍基地で100人を超える水兵がインフルエンザに罹患	
9/11			フィラデルフィア海軍訓練基地に19人のインフルエンザ患者が発生
9/12		コネティカット州ニューロンドンでインフルエンザ発生	フィラデルフィア海軍訓練基地に87人のインフルエンザ患者が発生
9/13		公衆衛生局が「ヨーロッパ諸国での混乱により、当局はこの病気の性質や蔓延について信頼できる情報は一つ得ることができなかった」と公表。また、公衆衛生局長ブルーは、全ての検疫所に入港する船にインフルエンザ検査を行う旨を通達を出した	
9/15		ニューヨークで初めてインフルエンザによる死者が出た	海軍訓練基地に600人のインフルエンザ患者が発生。海軍病院ではベッドが足りず、ペンシルバニア病院にも患者を搬送
9/17			ペンシルバニア病院の医師5人と看護師14人が突然倒れた
9/18		衛生局長ブルーが、アメリカのどの地域にインフルエンザが広がっているのかを調査し始める	クルーゼン博士がブラマー、ルイスらと会合。市民集会の禁止、会社や学校の閉鎖、海軍訓練所と一般市民の患者との完全隔離なども検討したが、戦争遂行の妨げになると考えた。そこで警告を発し、人前で咳をしたり、くしゃみをしたり痰や唾を吐いたりしないように呼びかけるキャンペーンを始めた
9/19			『フィラデルフィア・インクワイアラー』紙が、600人の水兵がインフルエンザに罹り市内の病院に入院し、そして病院には一般市民もいるという記事を掲載
			2人の水兵がインフルエンザで死亡
9/20			14人の水兵がインフルエンザで死亡。「身元不明のイタリア人」が市民初の死者として発生

1918

9/21		・アメリカのキャンプ・グラントで、兵士数人が病気を申告。その夜、108人が入院。 ・サンフランシスコの衛生局長ウィリアム・ハスラーは、患者が発生しないうちから全港施設の検疫を行い、支援体制を整え、公共の場所は閉鎖された。 ・ワシントンDCでインフルエンザによる最初の死者。バージニア州ピーターズバーグ郊外のキャンプ・リーで6人が死亡、ニュージャージー州のクランプ・ディックスでは13人の兵士と看護師1人が死亡	市の保険局はインフルエンザを届出伝染病に指定
9/22		ボストンに近いディベンス基地の兵士の20%がインフルエンザに罹患、月末には何千人もの患者が病院に殺到 ・ワシントン近郊のキャンプ・ハンフリーズで65人がインフルエンザに感染したことが報じられる ・アメリカのフェニックスで、『アリゾナ・リパブリカン』紙は、「ボストン衛生局のW・C・ウッドワード医師が今晚、楽観的な態度を表明した。ウッドワード医師は現在患者数は増加しているが心配することはないと述べた」と報じた	
9/23		キャンプ・グラントの入院患者が194人に増加	
9/24		・アメリカのキャンプ・ディベンスで342人の兵士がこの日だけで肺炎で入院 ・キャンプ・グラントの入院患者が371人に増加	
9/25		キャンプ・グラントで初の死亡者。3108人の兵士がここからジョージア州オーガスタ郊外のキャンプ・ハンコックへ移動。移動後、700人以上がインフルエンザで即入院。その後、計2000人が入院し、そのうち143人が死亡。	
9/26		キャンプ・グラントで2人が死亡、711人が入院。陸軍キャンプでインフルエンザが蔓延し、憲兵隊長エノック・クラウドが14万2000人の徴兵招集を延期	
9/26-10/5	フランス兵がインフルエンザで毎日30名が死亡、毎日1600名が戦線離脱。		
9/27		ウィスコンシン州の『ジェファーソン・カウンティ・ユニオン』紙がインフルエンザの真相を報じると、軍の士気担当司令官がその報道を「士気を低下させる」として刑事訴追を含む「適切な措置」をとるよう取締官に記事を転送した。	新たに200人がインフルエンザで市内病院で入院
9/28			購買運動開始の祝賀パレード開始
9/29	ブルガリアが停戦条約に調印	軍医総監代理チャールズ・リチャードは、軍司令官ペイトン・マーチ大將に、「感染が判明しているまたは秘域に接触した部隊は、病気が隊からなくなるまで海外任務に出さないようにすべきだ」と手紙で訴えた	
9/30	ヴィルヘルム2世がドイツ国民に政党内閣を認めた		クルーゼンが、「インフルエンザがいまや一般市民にも発生し、しかも、海軍基地や兵營で確認されたものと同じ型であると思われる」と発表。市内31病院すべてのベッドが塞がる
10月の10日間	フランス軍の3万6000名が罹患し、2400名が死亡		
10/1			一般市民より新たに635人のインフルエンザ患者が報告される。インフルエンザで117人が死亡。
10/3			市当局が全ての学校、教会、劇場その他大衆娯楽施設の閉鎖命令を下す
10/4		・キャンプ・グラントでの一日の死者が初めて100人を超す。間もなく一日で1810人が病気を申告し、死者数も伸び続ける ・ニューヨーク州ブロンクスビルの『レビュープレス・&・レポーター』紙が初めてインフルエンザについて報じる。「天罰」が最初の犠牲者に下ったと報道。そして、「恐怖は病気よりも多くの人を死に陥れる。弱音を吐く者や臆病者が最初に犠牲者となる」と警告した。	
10/5			この日に254人がインフルエンザで死亡したと医師が報告。新聞は、公衆衛生当局の言葉を引用し、「インフルエンザの大流行はピークに達した」と報道。
10/6			この日に289人がインフルエンザで死亡すると、新聞は「流行は過ぎ去ったと確信していると、衛生当局は自信を見せる」と報道
10/7	オーストリアがウィルソンの定める条件で正式に和平を求める外交文書を送った→ウィルソンは返答せず		・ペンシルバニア州のベル電話電話会社で、850人の社員が欠勤。「インフルエンザもしくは戦争関係で絶対的必要に迫られた場合以外は」取り継げないと通告 ・市当局に代わり、ベッパ一家とマーティン家が民間12団体の代表を集め、戦争債を売るための組織を利用して医療や食糧を分配できるようにした→一方でクルーゼンは数百人の看護師の管理を民間に譲り、町の憲章に違反して町の災害資金10万ドルと戦時緊急資金2万5000ドルを物資や医師の雇用のために使用した
10/8		キャンプ・グラントのハガドーン大佐が最新の死亡者数の報告を聞いた後、銃で自殺。	・ペンシルバニア州保健福祉部は、不必要な電話をかけてくる顧客にたいする取り次ぎ拒否の権限を電話会社に与えた。 ・クルーゼン博士がフィラデルフィアでの流行は山場を越えたと発表

10/10			<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザ及び肺炎で一日あたり759人の死亡を記録</li> <li>・フィラデルフィア国防委員会が組織され、インフルエンザで助けを必要とする人々が援助を申し出ている人々に連絡できる情報センターをストロブブリッジ・クロティア通信販売デパート内に開設（フィルバート100番）し、20台の電話を設置し24時間対応で受け付けた。</li> <li>・自動車会社や公債購買運動事務局などが400台以上の乗用車を救護活動用に、個人の乗用車やタクシー会社が医師や看護師を運ぶようになる</li> </ul>
10/11			フィラデルフィアで、タウンクライヤーによる公債購買運動
			インフルエンザで482人が死亡。
10/13			<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィラデルフィア総合病院では52人の看護師が寝込む。レバノン病院は3人の看護師で125人のインフルエンザと肺炎の患者を見る</li> <li>・児童衛生局は近隣の住民に、一時的にでも両親が重体または死亡した子どもを受け入れてくれるよう公的に要請を出す</li> <li>が、反応はゼロに等しかった</li> </ul>
10/14			遺体の防腐処理人が絶対的に不足していると死体検視官から訴え
10月半ば			この頃までに死体の撤去を行っていた警察官のうち33人が死亡
10/16			711人の市民の死亡報告
10/17			市の資産家層のリーダー的存在であるジェイ・クック氏が、フィラデルフィアの公債購買成績が他の都市より劣っていることに対して不満を表明
10/22		サンフランシスコの市長、衛生局長、赤十字社、商工会議所、労働組合が協力し、新聞の一ページ広告で「マスクをかけて命を守ろう。これがあればインフルエンザを99%防げる」と呼び掛けた	
10/25			市の国防委員会が発注していた標準的な仕様の棺700、松材を使った箱タイプの棺1500が完成
10/26		サンフランシスコの赤十字社はマスクを10万個市民に配った	「フィルバート100番」が終了
10/27			市の保健局は、教会における集団礼拝禁止命令を解除
10/28			学校が再開
10/30	オスマン帝国降伏		劇場、サロン、その他もろもろの施設が再開
11/3	キール軍港の反乱→ドイツ革命		
11/7			戦争終結という誤った情報が流れ、フィラデルフィアの街角や広場が100万の市民であふれる
11/8		『アリゾナ・リパブリカン』紙は、「フェニックスの住民は危機に直面している。エビデミックの感染の割合がここまで高くなり、いまや最大の問題となった・・・町中ほとんどの家も病気に感染しているが、勇気のある人は人道のために奉仕しなければならない。」と報じた。	
11/11	ドイツ降伏		本当に戦争が終結し、11/7と同じかそれ以上の騒ぎとなる。